

地域防災リーダーのための

防災訓練要領



名古屋市消防局

はじめに

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、瞬時に多くの尊い命が奪われる甚大な被害を受け、災害発生直後は、行政機関が十分に機能できない状況に陥りました。

この阪神・淡路大震災では、日頃から住民の交流が盛んな地域では、住民や事業所の人達が力を合わせて、生き埋めになった人の救出や燃え上がる炎に対してバケツリレーなどにより、自分たちの町を自分たちで守り、一人ひとりの力は小さくても、みんなが集まれば大きな力になって、地震にも立ち向かうことができることや自主防災組織の活動を中心とする地域防災コミュニティの重要性があらためて認識されました。

平成14年4月24日、本市が地震防災対策強化地域に指定されたことに伴い、各学区防災安心まちづくり委員会が企画・立案した訓練等を、消防団などの各種団体との協働により、幅広い世代・分野の住民の参画を得て取り組むことにより、地域における震災対応力の向上を図ることが求められており、自主防災組織とともに消防団の地域で果たす役割はますます重要となっています。

この冊子は、現在、防災訓練等で多く実施されている初期消火訓練及び応急救護訓練を中心に取り上げ、自主防災組織や消防団などの地域の防災リーダーのみなさんが、訓練・講習等の実施時において、地域の方々などへの訓練方法や必要な知識を支援していただく時の一助として活用いただければ幸いです。

平成15年6月

目次

1 訓練の必要性	(1)
2 訓練種別と内容	(2)
3 初期消火訓練	(3)
消火用具の使用方法	(3)
4 応急救護訓練	(8)
心肺蘇生法	(8)
止血措置	(9)
骨折措置	(11)
三角巾法	(13)
搬送法	(21)
救出方法	(23)
5 参考	(26)
消火器の設置場所等について	(26)
住宅用消火器等の紹介	(27)
消火器の取扱い説明(例)	(28)

1、訓練の必要性

被害を最小限に食い止めるために最も大切なことは、災害が発生したときに直ちに一人一人が落ち着いて適切な行動をとることです。

特に地震の場合は、同時に発生する火災を地域住民が力を合わせて消火活動を行うかどうかなどが被害の大小を左右します。

災害発生時に、町内や家族の皆さんが、すばやく任務を遂行するためには、日頃から訓練を積み重ね、防災行動力を養う以外ありません。



2. 訓練種別と内容

訓練には、個別訓練と総合訓練があります。「個別訓練」というのは次に示す訓練について、これを個々に行う訓練です。「総合訓練」というのは、各訓練で習得した知識や技術を総合して、一体的な連携体制の確立を図るための訓練です。

訓練種別	訓練内容
情報伝達訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○情報収集訓練——地域内の被害状況や情報の把握 ○情報伝達訓練——各種の情報を地域に伝達
初期消火訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○消火バケツによる消火訓練——三角バケツ、消火バケツのリレー消火 ○消火器による消火訓練——各種消火器による消火
応急救護訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○ロープ取扱訓練——ロープの結び方と取扱い ○人工呼吸法——負傷者に対する人工呼吸 ○止血法——多量に出血した場合の止血 ○骨折の応急手当——骨折負傷者に対する骨折処置 ○三角巾法——三角巾を活用した傷口の保護処置や止血処置 ○搬送法——毛布、さおなどを活用した応急担架の作り方と搬送
避難誘導訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○避難誘導訓練——実際の避難活動を通じて人員確保隊列の組み方、誘導員の配置、歩行困難者の避難介添え等
給食給水訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○炊き出し訓練——炊き出し用品を活用しての炊き出し ○食料等の配布訓練——備蓄食料や炊き出し食料、飲料水の配布

総合訓練

3 初期消火訓練

消火用具の使用法

消火器や三角バケツは、初期消火に欠かせません。日ごろから、その使い方をよく知るとともに、いざという時、すぐ役立つように整備・点検しておきましょう。

消火用バケツの使い方

- ・火災の初期には、バケツ 1 杯の水が十分に役立つものです。
- ・水を入れた消火用バケツまたは三角バケツを、ふだんから玄関のわきや台所のすみなどに用意しておきたいものです。

水バケツの水量は 50 ~ 60% にし、バケツの柄を身体の進行方向と平行に持って運びます。



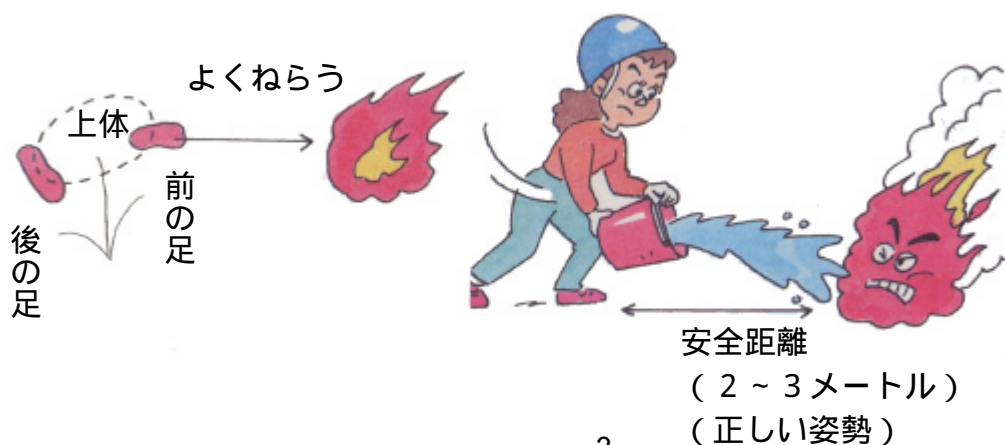
(誤った方法) (正しい方法)

バケツの取手部を両手で持つ者と、バケツの柄を両手で持つ者で、ぶつかり合わないようにして手渡す。



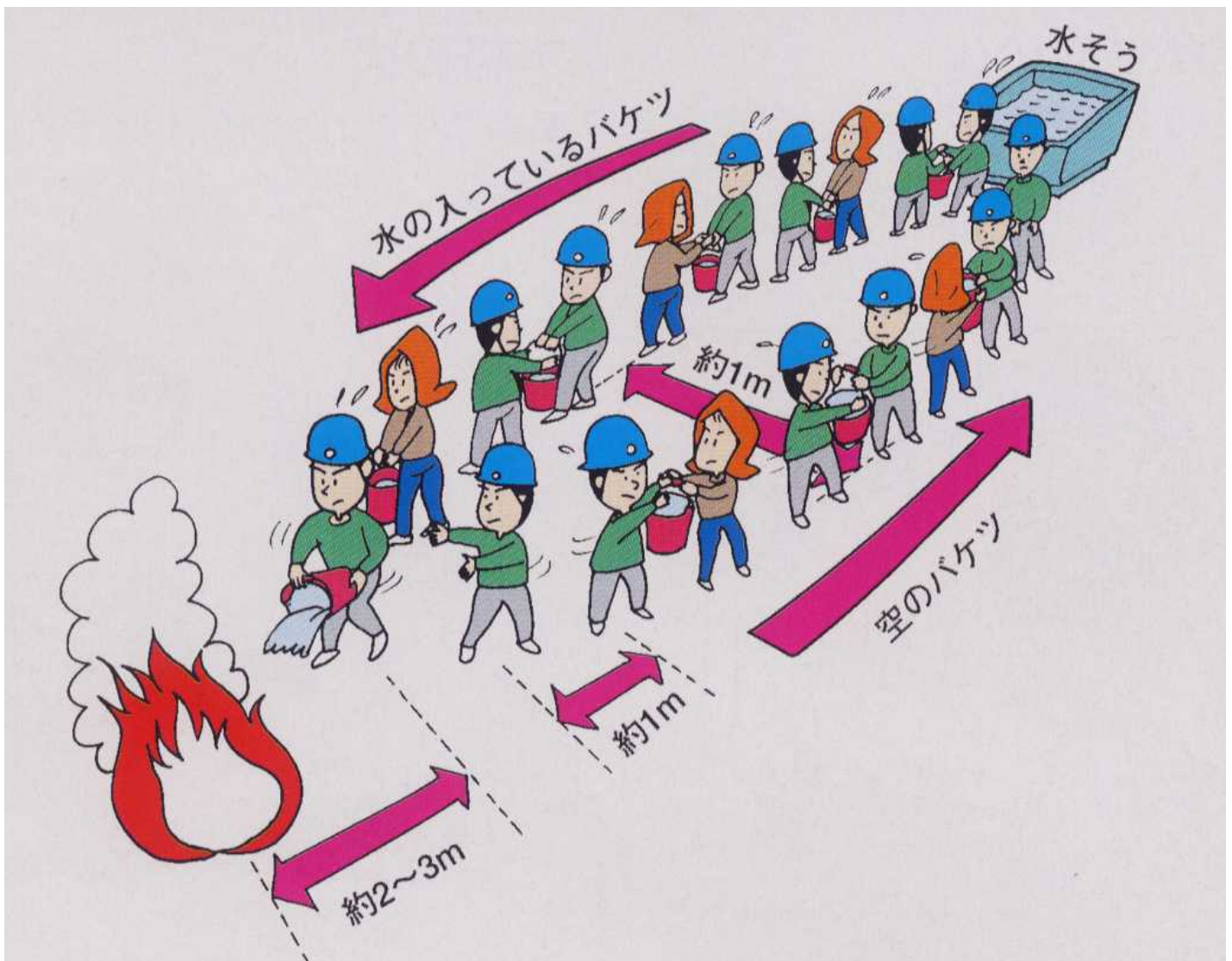
バケツを持って風上から近寄り、消火目標の 4 ~ 5 m ぐらい手前でいったん立ち止まり、燃えている状況をよく見て安全距離 (2 ~ 3 m) を考えて注水位置を定める。腰を落として、両足をしっかりふんばり、片手でバケツの柄とバケツの上縁を一緒にしっかり握り、もう一つの手でバケツの底に手指をかけ、両手で上下からしっかりおさえて構える。

注水する前に燃えている目標をよく確かめて、一杯で火の勢いをおさえるようよくねらって注水する。



バケツリレーの方法

バケツリレーは、水槽、浴槽、プールなどから人海戦術で水を運び消火する方法です。



バケツリレーを地域の運動会などの競技に取り入れ、日頃からチームワークを高めましょう

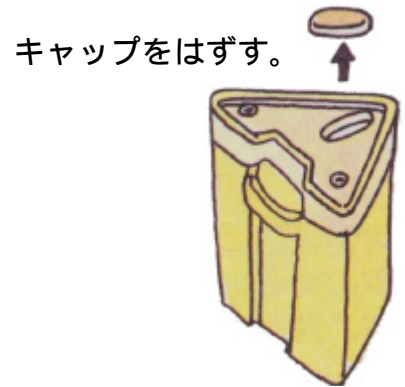
三角バケツの使い方

この三角バケツは、1回で消火に失敗しても2回、3回と続けることができ、水を有効に使うことができるとともに、部屋のすみや廊下などに置いておいてもじゃまにならないよう工夫されています。（三角バケツの内部に間仕切りがあり、中の水を数回に分けてかけられる。）

また、三角バケツには、ホコリやゴミが入らないように蓋がついているので、2～3日毎に水を取り替えておけば、非常時の飲料水としても使用できます。

このバケツは、両足を開いて腰をおとし、バケツを腰まで引いて前に押し出すような気持ちでかけます。

1回目は反動があるので、やや下の方へ向けて、2回目からは上の方からかけて水がなくなるまでかけます。



4～5m離れたところから、火に向かって、下から上へ押し出すように投水する。



火勢がおとろえたら、近づいて消火する。
有効投水は5回。



三角バケツの置き方



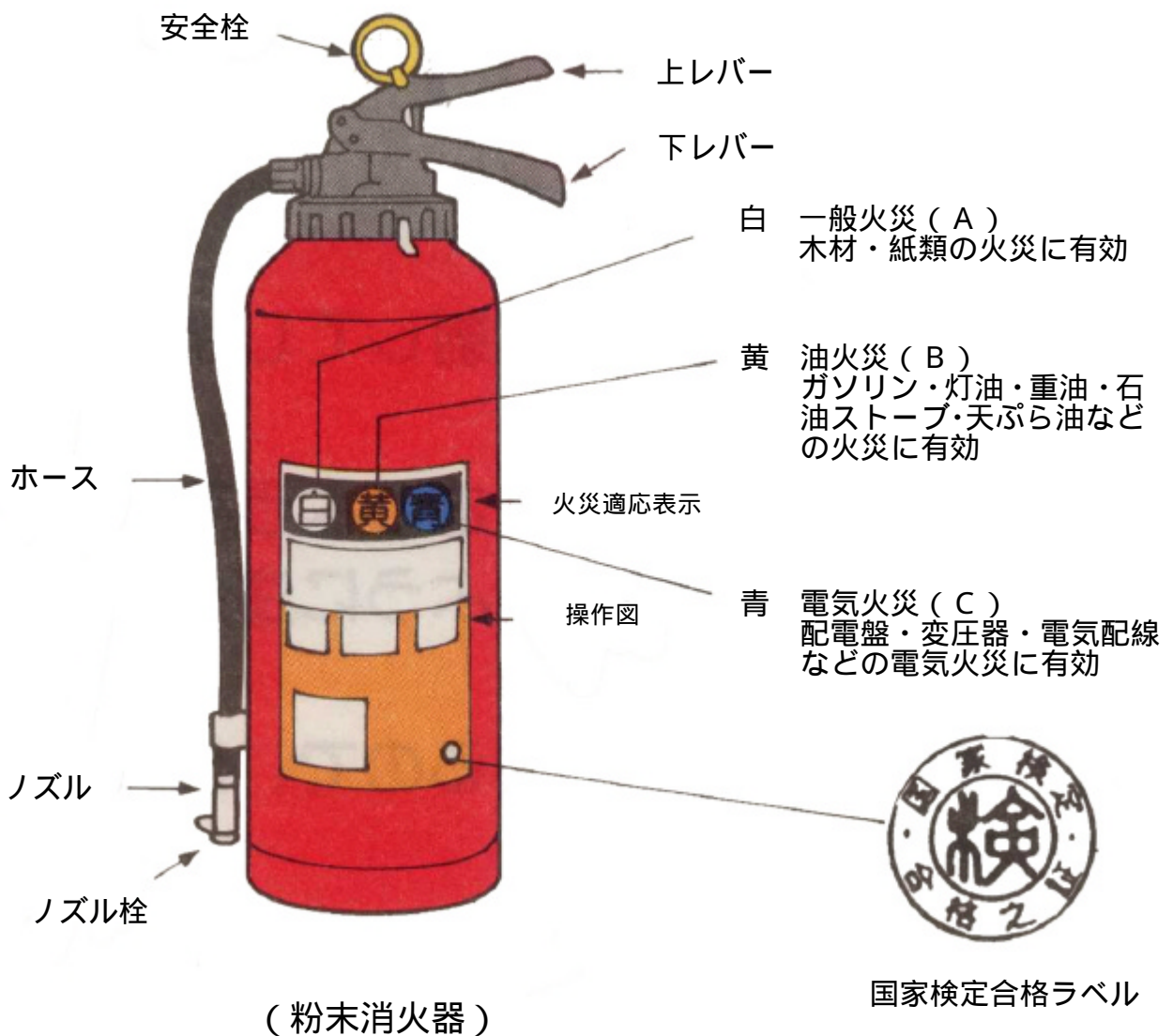
消火器の使い方

消火器は、その名のとおり、初期消火に有効なものですが、それも使い方を知らなければ、単なる飾り物となってしまいます。

消火器の取扱いに慣れるには、近くで行われる防災訓練などに参加して実際に使ってからだで覚えることが大切です。

消火器の適応火災

消火器がどのような火災に有効かは、下図に示すとおり消火器に色で表示（白、黄、青）がされています。

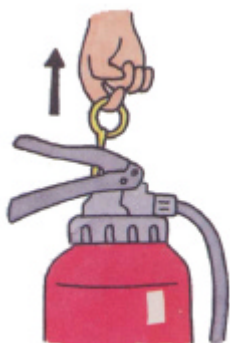


粉末消火器 (ABC) は、ほとんどの火災に使用することができます。

粉末消火器

使い方はとても簡単です。

安全栓をはずす。



ホースをはずし、
ノズルを火炎に向ける。



レバーを強く握る。



消火の要領としては、煙に惑わされず、火元を掃くようにノズルを左右に振りながら、手前の火から完全に消して前に進みます。屋外では風の影響を考えて風上から放射します。室内では身体を低くし煙や熱気をさけ火元に近付いて放射します。

粉末消火器を使用した時は、燃焼物の中心まで完全に消えていないことがありますので、再燃させないためにも、水を十分かけておく必要があります。

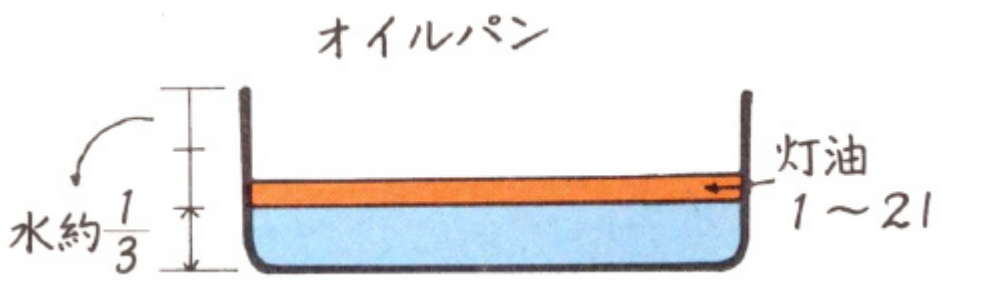
訓練実施上の留意事項

訓練の準備

- ・訓練を実施する前に、消火器の点検を行い、破損や腐食の激しいもの、あるいは型式失効したものは使用しないようにします。
- ・オイルパンの油に点火して消火訓練を行う場合は、周囲や上方に十分な空間を確保するとともに、風向きに注意し、必ず風上から消火します。
- ・オイルパンには、深さの1/3程度の水を入れた後、灯油を約1～2リットル入れます。
- ・オイルパンの油面が十分燃え始めた時点で消火器を持ち、風上3～4mに停止して行います。
- ・消しそこなうこともあるので、予備の消火器を用意する必要があります。
- ・見学者が風下にいると、消火薬剤が目に入ったり、火炎にあおられたりすることもあるので、風横の位置（10m以上離れる。）で見学させるようにします。

必要資器材

粉末消火器、泡消火器、消火バケツ、オイルパン、灯油、点火棒（バーナー等）、水等を準備します。



4 応急救護訓練

心肺蘇生法 (8才以上)

1 反応の確認

- ・両肩を叩きながら呼びかけ、反応があるかどうか確認します。



2 助けを求める

- ・119番通報、AEDを持ってきてもらうよう依頼、近くに医師がいたらつれてきてもらうように依頼します。

3 呼吸の確認

- ・気道の確保をしながら（頭を下げ、顎をあげて息をしやすいようにし）、胸の上がりを見て、呼吸の音を聞いて、吐息を感じて **10** 秒以内で確認します。



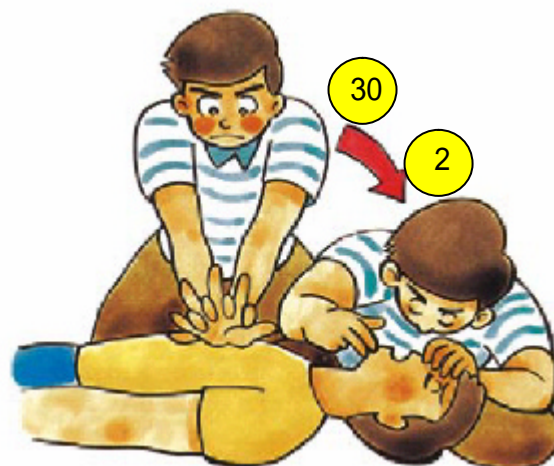
4 人工呼吸

- ・「普段どおりの呼吸」でなければ、気道確保しながら人工呼吸を **2** 回行います。



5 胸骨圧迫と人工呼吸

- ・心臓マッサージ（胸骨圧迫）をします。胸の真ん中を手の付け根で **4~5** cm沈むぐらいで **30** 回（1分間に約 **100** 回のリズムで）圧迫します。
- ・胸骨圧迫 **30** 回が終わったらすぐに人工呼吸 **2** 回行い、これを救急隊に引き継ぐまで、もしくは、体が明らかに動いたり、息が正常になったりするまで続けます。



止血処置

血を見てもあわてないで次の処置をしてください。

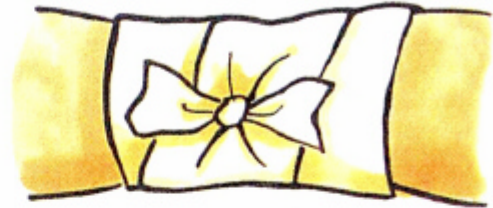
● 手足であれば、その部分を高く挙げる。

● 直接圧迫

血の出ているところを直接おさえます。大部分の出血はこれで止まります。



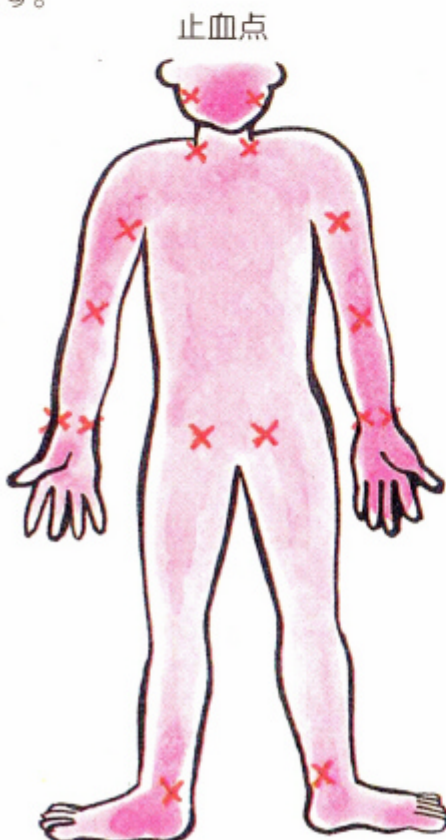
- ・厚く折りたたんだ清潔な布であおって押さえます。



- ・一度包帯してもまだ血がとまらないときはその上からもう一度包帯をします。

● 間接圧迫止血法（参考）

大出血の時、傷口より心臓に近い所の動脈（止血点）をおさえ、血の流れを止めます。



● 止血帯

手・足の太い動脈を切るなどの大出血で医療機関まで時間がかかるときの最後の手段です。

- ① 下にあて布をしてゆるめに包帯（三角巾）をしめます。

棒をさしこみゆっくりしめ上げる。出血が止まるまでしめ、固定します。



- ② 止血帯には必ず、見易いところに止血した時刻を記入しておきます。



出血の程度

(1) 動脈性出血

鮮紅色の血液がピュッと、ピュッと噴き出し、短時間で多量に出血します。速やかに適切な処置が必要です。

(2) 静脈性出血

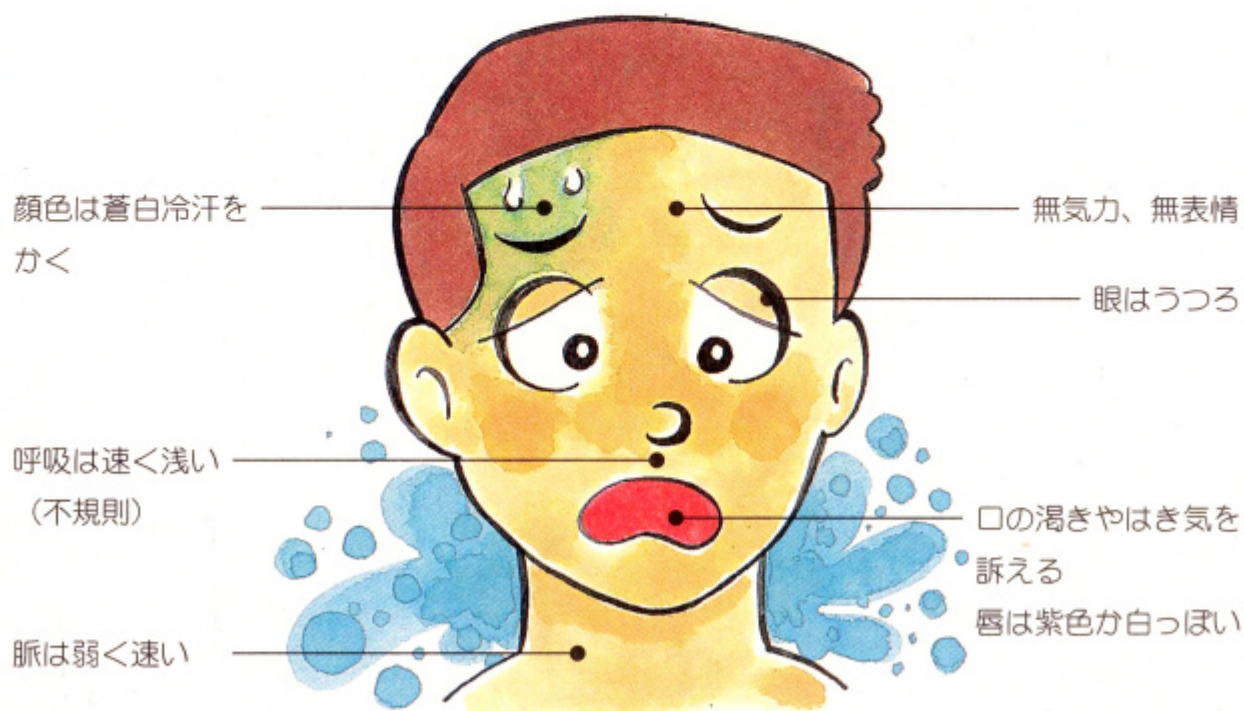
暗赤色の血液がじわじわと流出します。しかし、細い静脈からの出血では出血部の圧迫によって容易に止血できます。

(3) 毛細管性出血

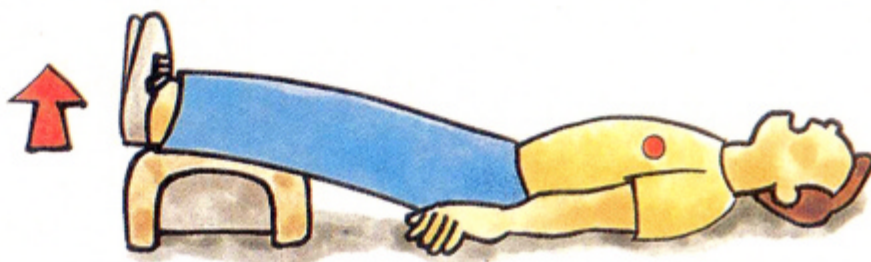
血液の色は動脈血と静脈血との中間で、じわじわと流出しますが、出血量は少なく、通常は自然に止まります。

● ショック状態

体の内外に多量の出血があると、全身の血液循環が悪くなりショック状態となります。



・ショック状態の時は足先をあげ体の中心部に血液が流れやすいようにします。



骨折処置

骨折は、交通事故、転落事故、スポーツなどが原因で起こりやすく、特に老人などは骨がもろいため、ささいなことにより骨折することがあります。

- ・骨折していると思われる場合は、不用意に動かしてはいけません。
- ・表面に傷がなくても骨折していることがあります。

骨折の症状

- ・激しい痛みがある。
- ・変形がみられる。
- ・急激にはれてくる。
- ・皮ふの色が変わる。

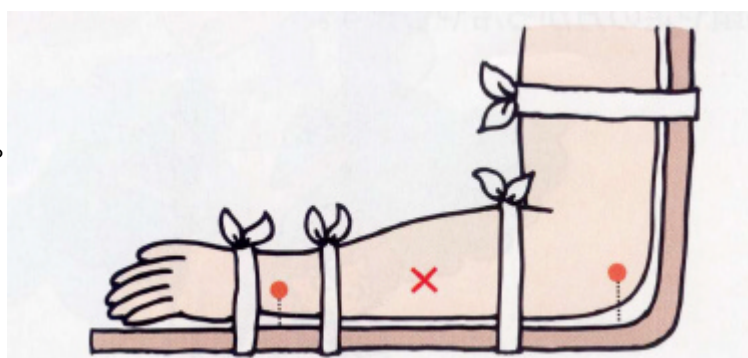


少しでも骨折の症状がみられたら固定します。

副木は2関節にわたるように固定します。

骨折部は動かしません。

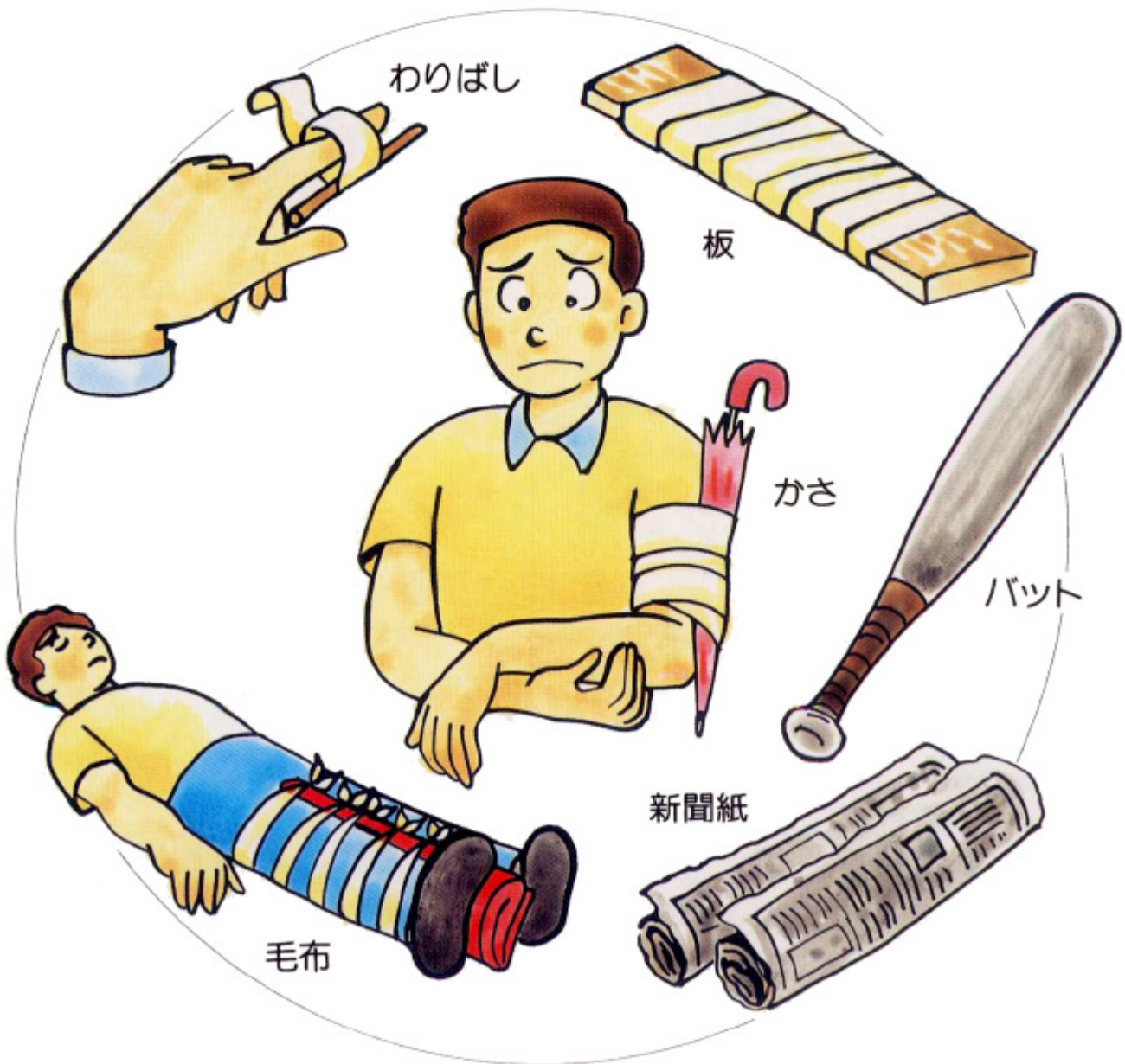
変形しているときも、そのままの状態です固定します。



● 副木がない場合

副木の代用としては、じゅうぶんな硬さと適当な長さ、及び幅をもつものが使用できます。

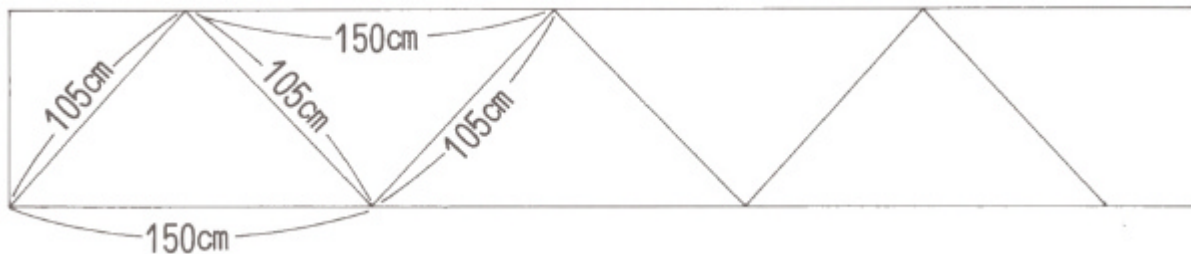
例えば身近にあるボール紙、新聞紙、週刊誌、板、戸板、棒、毛布、かさ、野球のバットなどです。



三角巾法

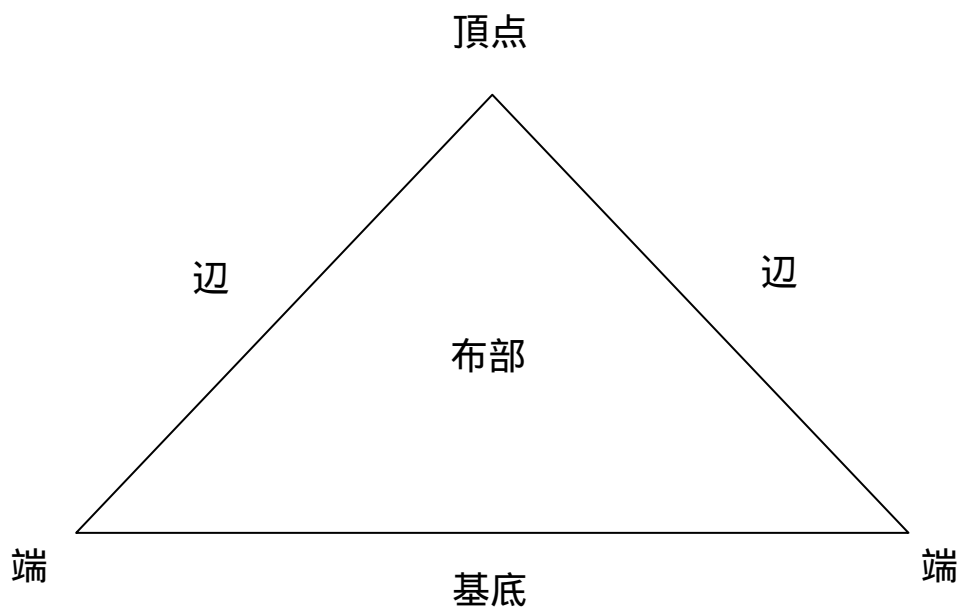
三角巾法は、応急手当における包帯として、極めて有効に用いられ、傷の大小にかかわらず最も手ごろな包帯です。しかし、ふだんからその使用法をしつかり訓練しておかなければ、いざというときに三角巾のもつ機能を十分に発揮できません。

三角巾のつくり方



使用上の注意点

- ・三角巾で滅菌処理されているもの以外は、三角巾そのものを直接傷口にあてないようにし、滅菌ガーゼ等をあててから包帯をすること。
- ・解きやすいように結ぶこと。
- ・全巾として使用する場合は必ず基底部を3～5cm折り上げ、折り返した方を外側にすること。
- ・たたみ三角巾は、傷口の大きさや場所に応じて適当な幅および大きさとし、傷口の上に結び目がこないようにする。



たたみ三角巾のつくり方

地面（床面）、衣類等に接触させることなく、手に持ったままの状態で作成し、三角巾の汚染を防止する。

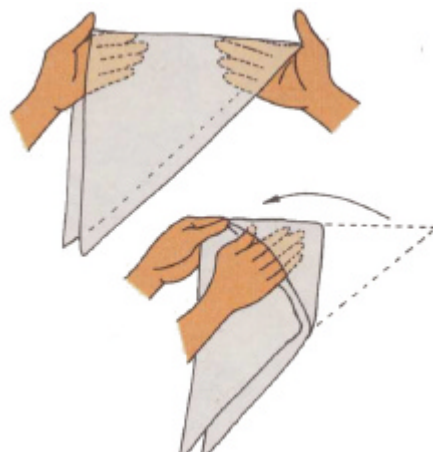
全巾基底部中央を左手で持ち右手で頂点を持つ。

半巾を作る。

この右手、左手ともに親指を外に出して、他の4指を三角巾の中に入れる。

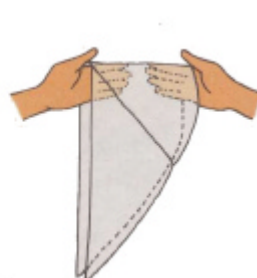
右手（頂点側）を手前（山折り）に折り、左手と右手が合わさるようにし、左手の親指で頂点を押さえる。

右手を手前1枚目と2枚目の間に入れ、折り目の頂点部をつまむ。



両腕を開いて内側を外側に返し、二つ折りのたたみ三角巾を作る

二つ折りにした後、右、左手ともに親指を外側に残し他の4指を内側に入れる。



右手側と手前（山折り）に折り、左手と右手が合わさるようにし、左手の親指で右手側の折り目の頂点を押さえる。

右手を手前1枚目と2枚目の間に入れ、折り目の頂点部をつまむ。

両腕を開いて内側を外側に返して四つ折りのたたみ三角巾を作る。



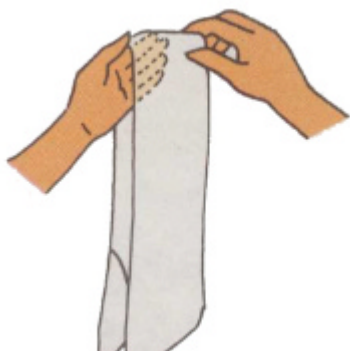
四つ折りにした後、右手、左手ともに親指を外側にし、残りの4指を内側に入れておく。

右手を手前（山折り）に折り、左手と右手が合わさるようにし、左手親指で右手側の折り目の頂点を押さえる。

右手を手前1枚目と2枚目の間に入れて、折り目の頂点部をつまむ。



両腕を開いて内側を外側に返して、
八つ折りのたたみ三角巾を作る。



たたみ三角巾のできあがり。
この方法によると、手に持った状態
で全巾からたたみ三角巾（二つ
折から八つ折り三角巾まで）が作
れる。



三角巾の結び方・解き方

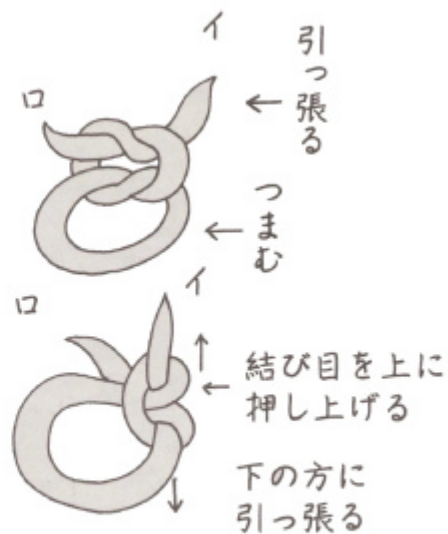
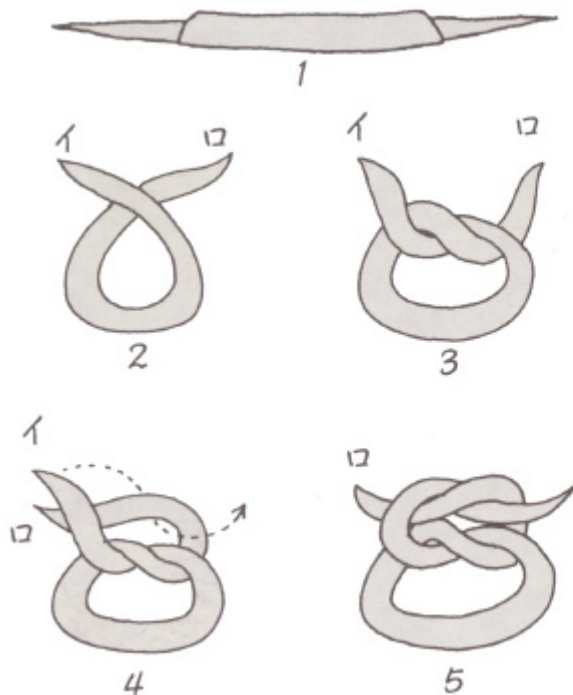
三角巾の結び方・解き方

- ・三角巾の右端を左端の上に重ねる。
- ・（ロ）を（イ）の下にもつてくる。
- ・（イ）を（ロ）の上から内側に巻いてしっかりしめる。

その解き方

- ・一方の端を引き起こすようにして強く引っ張る。
- ・その手を離し、結び目の下の方をつまむようにして押さえる。
- ・他の手で最初に引っ張った方の三角巾の結び目を押さえている手の少し下のところで持ち、両方を左右に開くように引けば容易に解ける。

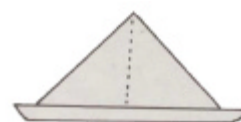
(本結び)



三角巾の使用方法

頭部

- ・三角巾の底辺を3cmくらい折る。
- ・折った方を外側にし、中央の線が鼻から頭の中央の線に重なるように頭にのせる。この場合底辺の端が眉の生えぎわにあたり、頂点が後頭部にいくようにする。
親指と人さし指で三角巾を額に押しつけながら引っ張るようにし、両手の間隔を徐々に開き両耳の後ろまでもってくる。



- ・両耳のわきで三角巾を頭に押しつけ、両方の親指を使い三角巾を両側の人さし指の下へたぐり寄せせる。そのまま三角巾を親指と人さし指で頭の方へ押しつけながら、指をずらし下へおろす。後頭部の出っ張りの下でこれを交差させ、両端を前にまわす。



- ・両端を引き締め額の中央でしっかり結ぶ。この場合底辺の端1cmくらい上で結ぶ。両端は三角巾の中へ入れる。

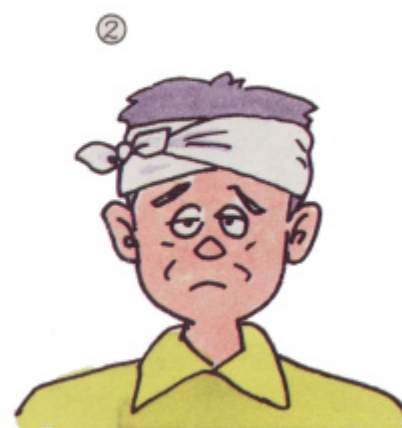


- ・後ろへたれている三角巾の頂点を下の方へ引き下げ、それを中央から二つ折りにし、更に二つに折る。それを上の方に上げ、交差している三角巾の方へ折り込む。



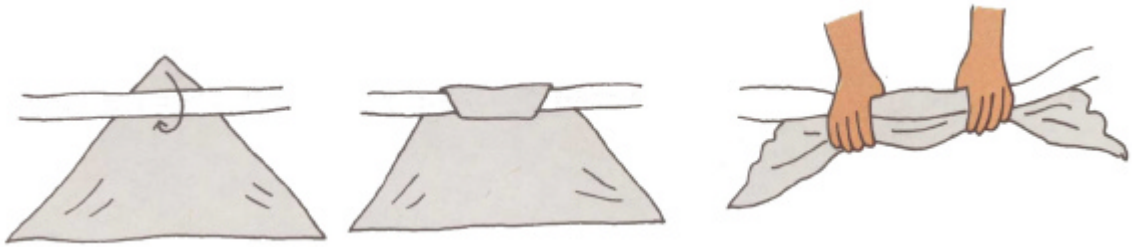
前額（ひたい）

- ・たたみ三角巾をつかう。



肩

- ・ネクタイ、バンド、又はたたみ三角巾と全巾を使う。
- ・たたみ三角巾の中央部を、全巾三角巾の頂点に内側からあてる。それを内側にくるくる巻き込む。親指と人さし指を使い全巾の下の方を上にかくし上げる。



- ・それを肩にあて、三角巾の両端は反対側の脇下にもっていき、胸（乳の上）でしっかり結ぶ。（ややきつく結ぶこと。）

- ・たくし上げてある三角巾を両手でこころもち引きながら下におろし、上腕の適当なところで結びつける。余った端はそこで折り込んでおく。



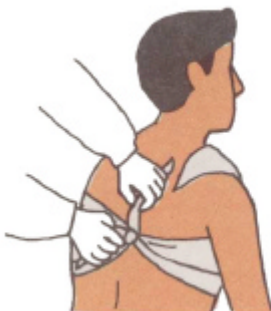
胸部または背部（背部は下記の方法を逆にする。）

- ・三角巾の底辺を約5cmくらい折る。
- ・傷のある肩に頂点があたるように三角巾をあてる。そのとき、底辺の折った部分が外にくるようにする。



- ・底辺の両端を背部にまわし、頂点のあたっている肩の下でしっかりと結ぶ。

- ・結んだ端の長い方を上に引き上げ頂点と結ぶ。



手（足も手と同じ方法で包む。手とは逆に底辺の方が多く余るようにする。）

・右手で頂点を持ち左手の上に底辺をのせる。

その上に相手の手を置かせる。



・頂点を手の甲の上（底辺の方）へ折り重ねる。

左右の端を腕側に沿って斜め上の方へ折り、それを手の甲の上で交差させる。両端を手首にぐるぐる巻く。



・手首（手の甲の方）で結ぶ。そして頭部のときのように頂点を折り込んでおく。



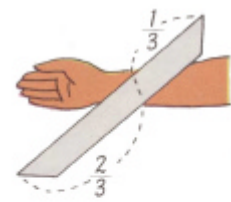
足の場合



前腕

・適当な幅にたたみ三角巾を作り、左手を前方に右手を手前にしてその右手でたたみ三角巾の全長の約 $2/3$ ぐらいのところを持つ。

・それを右図のように左手と右手の中間が、傷の上にあたるように斜めにあてる。（長い方が右手の方に下がっている。）



・次いで右手の方を1回相手の手首に巻く。この場合負傷部にあたっている「ガーゼ」を動かさないために、左手で「ガーゼ」をしっかりと押さえておく。



・右手の方を斜め上へ蛇行帯の要領で段々に巻き上げる。



・そして最後を結ぶ。

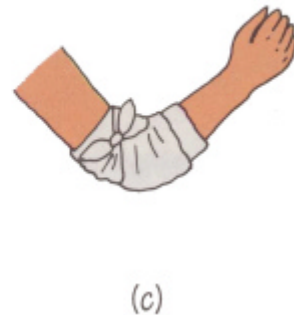
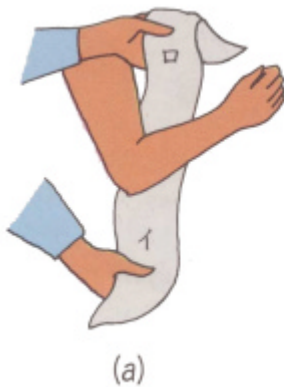


肘

・肘を十分おおうくらいのたたみ三角巾を作る。(約20cmくらいの幅が適当である。)その中央部に肘にあてる。事故者の肘は曲げておく。

・外側((a) 図イ)の方が下にくるように、肘の内側を交差させる。

・交差したときに下になっている方(イ)を上腕の方に、上になっている方(ロ)を前腕の方に、それぞれひと巻きする。(この場合なるべく下の三角巾の端を押さえるようにする。)

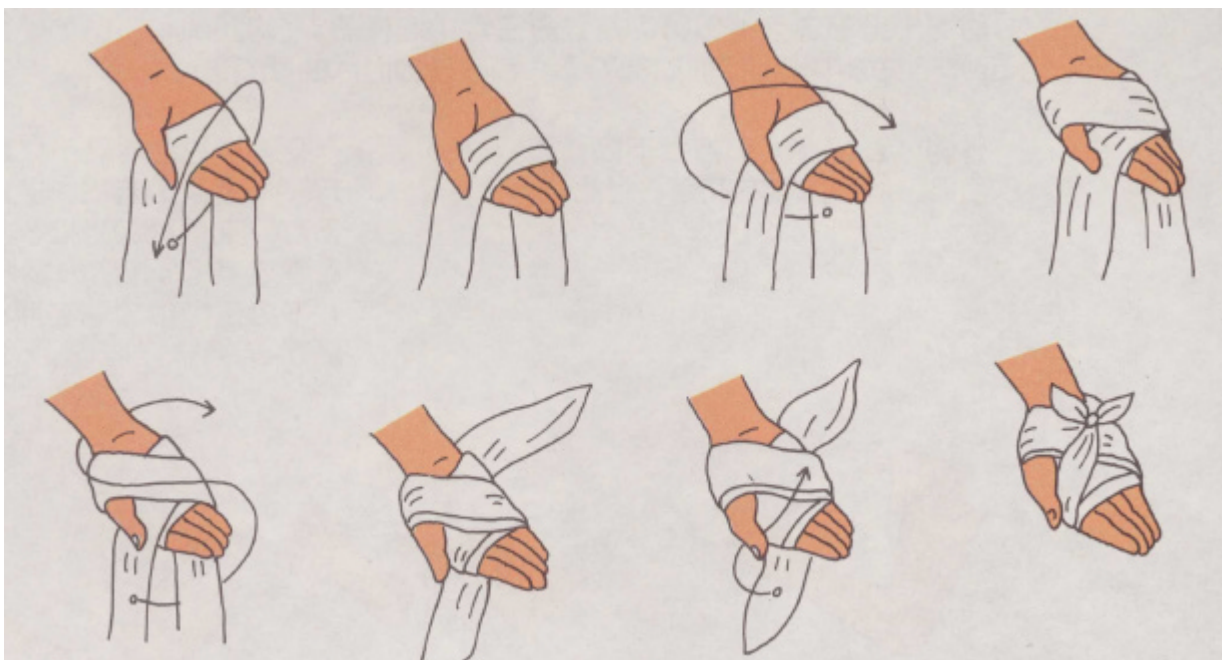


膝

- ・肘と同じ要領で巻く。
- ・常に膝の上の方で、外側で結ぶ。
- ・膝を巻くときは、肘の場合より広めの「たたみ三角巾」をつくること。(約25cmくらい)



手のひら



骨折時の腕の吊り方（全巾用）
・吊ろうとする腕の方へ頂点がくる。
骨折していない腕の方へ底辺がゆく。

・頂点を折り曲げて、ピンで止めておくか、あるいは頂点で結んでおく。



搬送法

地震などの災害が発生すると、からだが不自由な人たちなどは自分だけで安全な場所に避難することは困難です。また、自分の力で避難する能力をもっている人たちでも、負傷して動けない人が出てきます。

そこで、いざという時にこうした歩行困難な人を安全な場所に運ぶことができるよう、応急担架のつくり方と搬送要領をふだんから訓練しておくことが大切です。

徒手で運ぶ

① 1人支持搬送



※歩行不能な負傷者は不向き

② 抱き上げ搬送



※脊椎損傷、骨折者は不向き

③ 背負い搬送



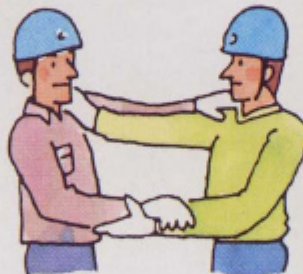
※骨折、内臓疾患は不向き

④ 2人支持搬送



※骨折患者以外の負傷者

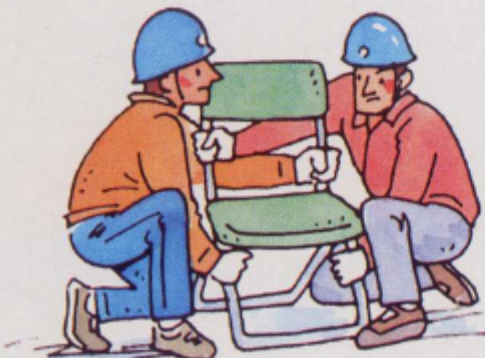
後ろの人は
かかえる人の
腕1本を両手
で持つ



手を組み合
わせて2人で
抱きかかえる

いすを使って運ぶ

① 左右について運ぶ



② 前後について運ぶ



※胸痛、喘息等の呼吸困難のある人に有効

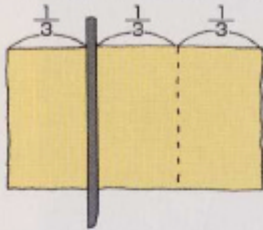
搬送時の注意事項

- ・搬送する前に、必要な応急手当を完全に行う。
- ・負傷者がいちばん楽な搬送体位を確保する。
- ・担架を持ち上げ前進するときは、前の者は右足（左足）より、後ろの者は左足（右足）より発信し、歩幅は普通より狭く、担架の動揺を防ぐようにする。
- ・原則として負傷者の下半身を前方にし、斜面や階段などを登るときは、頭が前方に向くようにする。

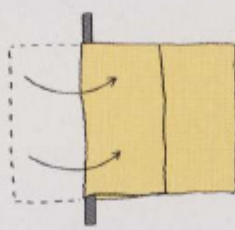
応急担架で運ぶ

●毛布の利用●

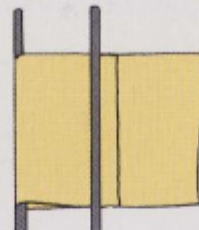
① 1/3のところのやや右に物干し竿や丈夫な棒を置く



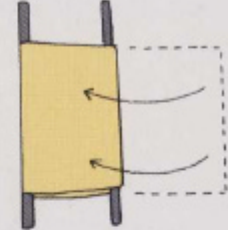
② 折り返す



③ 折り返された端より内側にもう1本置く



④ 折り返す



●着衣の利用●

① 裏返しにして袖を通す

② 隙間なく並べる



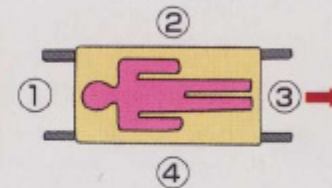
作り方のポイント

両手で棒の先端を握り、腰を深く曲げ、上着の裾を持って、裏返しになるように棒の方向に脱がせる。一人ずつ同じ動作を繰り返す。

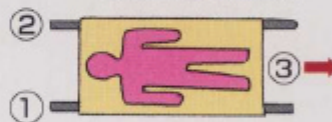
※ボタンのあるものは必ずかける

●搬送要領●

〔4人で運ぶ場合〕



〔3人で運ぶ場合〕



歩けない人などを背負う



① けが人などをなるべく高く背負い、ロープをけが人の両脇下から救助する人の肩ごしに前に出し、2～3回ねじって交差させる。

② 手に持っているそれぞれのロープを、けが人の両足の外側から内側をとおす。

③ このロープの両端を救助する人の胸で交差しているロープの上から通して前に出す。

④ 腹部で結ぶ。

救出方法

はり 梁等に挟まれている場合



● 使用器具

ボール・ジャッキ・のこぎり・シャベル・角材(太さ10cm以上)など

救出要領

- 1 挟まれている人に声をかけ安心させ、できれば人数などを聞き出す。
- 2 ジャッキやてこを利用して、かぶさっている物を持ち上げる。
- 3 できた空間に角材などを入れて支える。



ワンポイントアドバイス

- 柱材は切断することによって、挟まれている人をさらに圧迫することがあるので、注意する。

閉じ込められた人の救出



● 使用器具

ボール・ジャッキ・のこぎり・シャベル・角材(太さ10cm以上)など

救出要領

- 1 閉じ込められている人に声をかけ安心させ、できれば人数などを聞き出す。
- 2 ジャッキやてこを利用して、かぶさっている物を持ち上げる。
- 3 できた空間に角材などを入れて支える。
- 4 作業のしやすい場所から除去や破壊を行う。



ワンポイントアドバイス

- 除去や破壊をする場合は、付近が崩れないよう注意する。
- 支えに使う角材などは、できるだけ太くて亀裂などが入っていないものを使用する。

ドアに挟まれた人の救出



● 使用器具

パール・のこぎり・
角材(太さ10cm以上)など

救出要領

- 1 挟まれている箇所、姿勢を確認する。
- 2 隙間をパールや角材などをてことして使用し広げる。
- 3 角材等をいれて徐々に広げる。



ワンポイントアドバイス

- 挟まっている人を無理に引っ張らないよう注意する。
- 木製ドア等を解体する場合は、挟まれている人をさらに圧迫することがあるので注意する。
- 挟まっている人の姿勢を変えることで外れる場合がある！

転倒家具などからの救出



● 使用器具

パール・のこぎり・角材(太さ10cm以上)など

救出要領

- 1 救助の障害となるものをあらかじめ除去する。
- 2 数人で持ち上がる場合は、人力で持ち上げる。
- 3 転倒した家具などの収容物が取り出せるときは、できるだけ出して軽くしてから持ち上げる。
- 4 パールや角材などをてことして使用し持ち上げる場合は、できた空間に角材などを入れて支える。



ワンポイントアドバイス

- 転倒物の一部や障害物を破壊する場合は、挟まれている人に注意する。

自動販売機等の重量物からの救出



● 使用器具

パール・ジャッキ・角材(太さ10cm以上)
・鉄パイプ(太さ5cm以上)など

救出要領

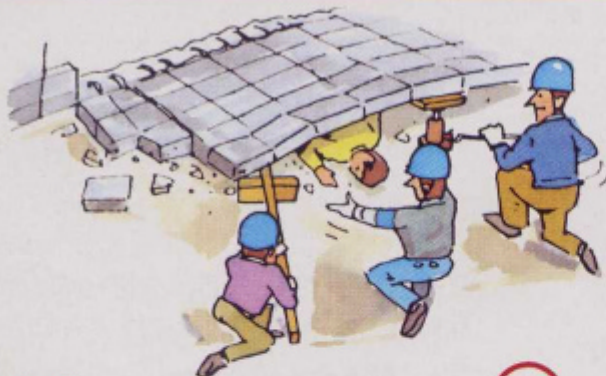
- 1 救助の障害となるものをあらかじめ除去する。
- 2 パールや角材、鉄パイプなどをてことして使用したり、ジャッキを使用して持ち上げる。
- 3 できた空間に角材などを入れて支える。



ワンポイントアドバイス

- ブロックは壊れやすいので、てこの支点には使わない！
- 持ち上げる高さは、救出に最低必要な高さまでとし、すべり等に注意する。

倒れたブロック塀からの救出

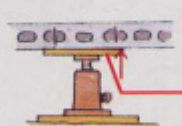


● 使用器具

パール・ジャッキ・角材(太さ10cm以上)
・鉄パイプ(太さ5cm以上)など

救出要領

- 1 パールや角材、鉄パイプなどをてことして使用し、持ち上げる。
- 2 ジャッキで持ち上げる。



しっかりした板など



ワンポイントアドバイス

- 持ち上げる高さは救出に最低必要な高さまでとし、重量物が崩れたりすべり落ちないように注意する。
- ブロック塀をジャッキで持ち上げる場合、ブロックは壊れやすいので板などあて物をする。

消火器を正しく設置していますか？

消火器本体は、サビがキライです。
水滴、湿気はサビのもと！だから
台所や流し台の近くや浴室、洗面所など
水滴がかかりやすい湿気が多いところ
には置かない！
ガスコンロやストーブのすぐ近くなど、
高温になるところには、置かない！
風雨にさらされる屋外に置くときは、直接
雨水がかからないように、格納箱にいれる
などする！



このような消火器は使用しないでください！



次のような消火器は要注意です。
外観にサビや、さわるとポロポロ
塗装がはく離するもの！
腐食があるもの！
へこみ、キズ、変形があるもの！
ホースにひび割れが出ているもの！

消火器は、きちんと管理していれば、
安全です。

消火器の廃棄処理の方法

消火器を購入した販売店や防災業者等に連絡して廃棄を依頼してください。（有料）
市内のホームセンター等でも、引き取りを行っているところがある。（有料）
消火器は、絶対に資源やゴミとして出さないようにしてください。！
くわしいことは、お近くの消防署・環境事業所にお問い合わせください。

不適切な消火器の訪問販売には、ご注意ください！

消防署では、消火器を販売することはありません！
法律では、ご家庭に消火器の設置、消火器の点検についての義務はありません！

住宅用消火器

住宅の火災に適した構造及び性能を有するもので次の特徴があります。



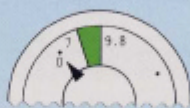
ホースがないものも多く、本体の色は赤色以外のものもあります。蓄圧式消火器で、消火薬剤は強化液または粉末となっています。ただし、消火薬剤の詰め替えはできません。

また使用方法、製造年、使用期限等を見やすい位置に表示してあります。

蓄圧式消火器とは、常時本体容器内に消火薬剤の放射用ガス（窒素ガス等）を蓄圧しているもので、腐食等した場合は自然に圧力が抜けるため、安全性が高い反面、管理不備などから圧力が低下していて、イザという時に使用できないこともあります。



○ 正 常



× 不 良

ゲージの針が緑の部分にあれば正常です。日常管理で注意してください。

消火性能として適応する火災（普通火災・天ぷら油火災・ストーブ火災・電気火災）は、次のように絵表示がされています。

普通火災適応

天ぷら油火災適応

ストーブ火災適応

電気火災適応



エアゾール式簡易消火具

消火器ではありませんが、消火薬剤（大部分が強化液タイプ）を放射用ガス（窒素ガス等）の圧力により噴霧状等に放射して消火するもので、次の特徴があります。



天ぷら油、石油ストーブ、くずかご、クッション等の火災を有効に消火できます。ただし消火薬剤の詰め替えは、できません。

容器の内容積が1ℓ以下の小型で軽量です。適応火災・品質保証期間等が表示されています。

消火器の取扱説明 (例)

消火器は、製造年やメーカーにより細部的な違いはありますが、基本的な操作要領は同じです。

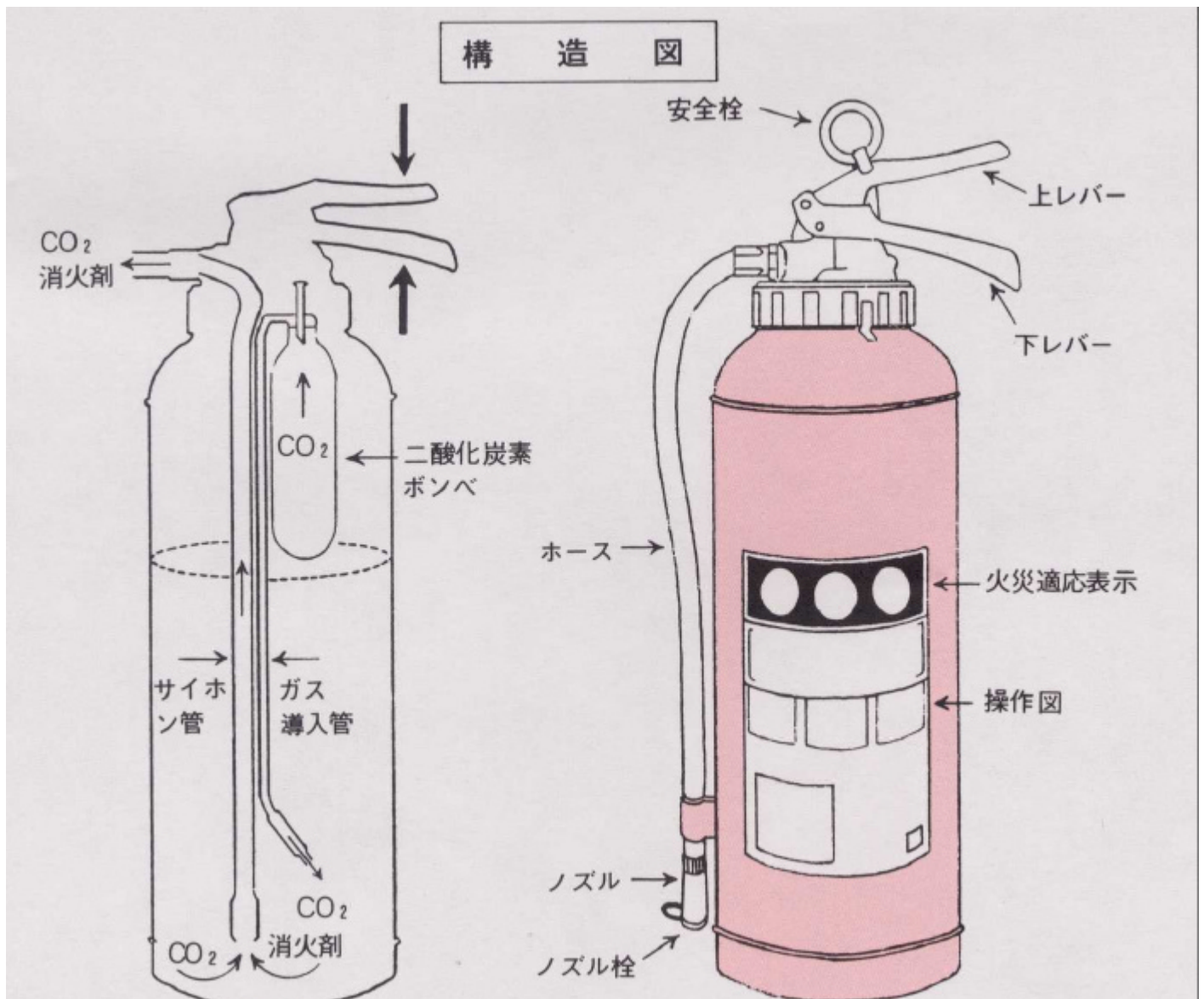
この取扱い説明例は、あくまでも一例にすぎませんので、説明する対象や人数に応じて内容を工夫して説明してください。

粉末消火器 (加圧式)

(1) 構造

この消火器は、粉末 ABC 消火器といえます。粉末消火器は、容器内に窒素ガスが封入された「蓄圧式」と二酸化炭素のボンベを内蔵した「加圧式」の2種類に分けられ、この消火器は「加圧式」の粉末消火器です。(一部窒素ガスのボンベのものもある。)

構造は、このレバーを握ることにより加圧用ボンベに穴があき、その圧力で粉末の消火薬剤がノズルから放射されます。

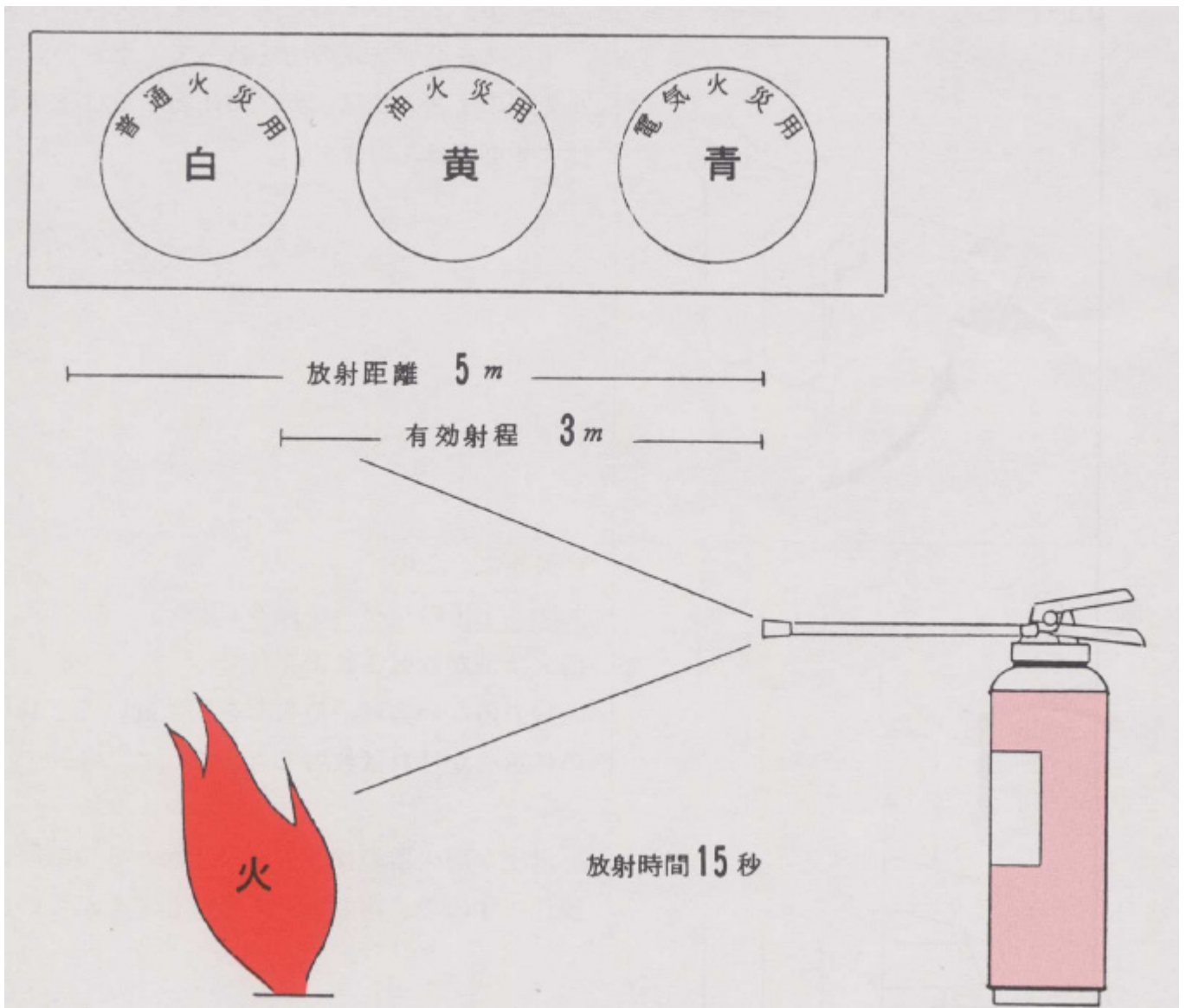


(2) 火災適応性・放射能力

このラベルを見てください。ここに3色の丸が書かれています。これが、この消火器がどのような火災に使用可能かという適応性を示しています。

白い丸は木材や紙などの普通火災、黄色い丸はガソリンや灯油などの油火災、青い丸は配電盤や変圧器などの電気火災に使用可能であることを示しています。つまり、この消火器は特殊なものを除いてはほとんどの火災に使用することができるわけです。

次に、放射能力ですが、大型消火器でなければ、一般に放射距離では5 m前後、放射時間では15秒前後になっています。しかし、有効に消火するためには、火災から3 mぐらいまで接近して放射しなければなりません。



(3) 操作方法

操作方法はとても簡単です。

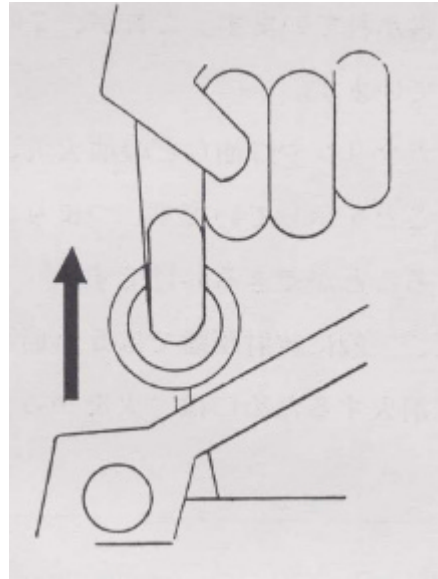
風上側より火炎まで約3mの位置に近づき、

安全栓をはずします。

安全栓は誤って放射することを防ぐためのもので、いろいろな種類のものがありました。すべて上抜き式に統一されています。

この黄色いリングを上方へ引いてはずします。

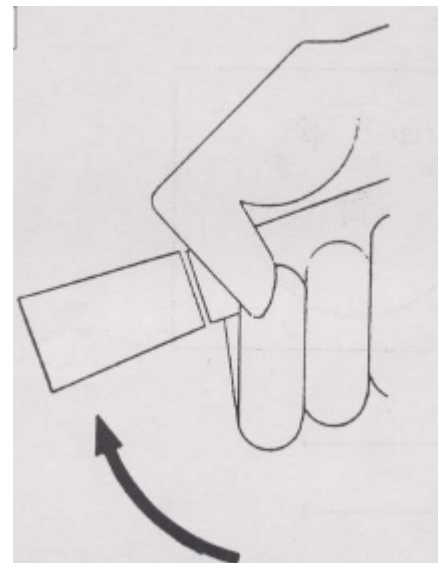
上下のレバーを強く握っていると、はずれにくいので注意して下さい。



次に

ホースをはずし、ノズルを火炎に向けます。

ホースを必ず先端の方を持ってください。ノズル先端のノズル栓は、ガスの圧力で抜けますからはずす必要はありません。



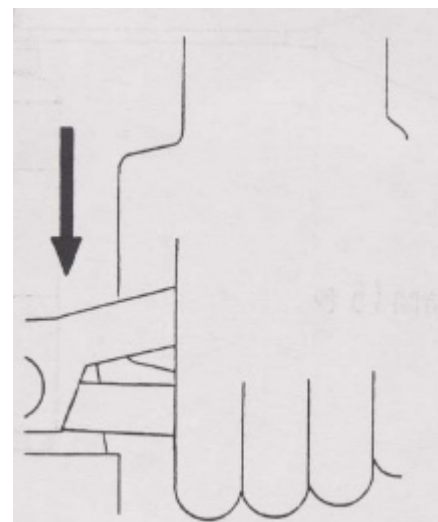
最後に、この

上下のレバーを握る。

と消火薬剤が放射されます。

握力のない方は、消火器を床に置いて上レバーに体重をかければ放射できます。

以上が消火器の操作方法ですが、3つの簡単な操作ですので、落ち着いて操作してください。



(4) 消火方法

消火方法としては、煙に或わされずに火炎の根元をなぎはらうように（ほうきを掃くように）放射します。できるだけ多くの本数を、連続して集中的に放射すると効果的です。

なお、消火器は、再燃防止のため消火薬剤がなくなるまで放射するのが原則ですが、完全に消火したことを確認したら消火器を逆さにすると、ガスのみが放出されて、いたずらに室内を汚すことはありません。

注意事項として、粉末消火器の薬剤は、水のように浸透性はありませんので、燃焼物の中心まで完全に消えていないことがあります。再燃させないためにも、消火器を使用した後、水を十分にかけておくことが大切です。

それでは実際に消火していただきますので、事前に指名されている方は、各自消火器をお持ちください。1つのオイルパンに対し、2名ずつで消火しますから2列縦隊に並んでください。

オイルパンに点火したら合図をしますので、オイルパンの約3 m手前まで走っていき、説明したように操作して消火してください。